岳友大野君の暖かいサポートで実現した

岩手県・焼石岳・胆沢川「尿前沢本流」

【日　　時】 2007年8月25日～27日
【メンバー】 L　大野・浅井・高柳・後藤・高橋（文・写真）

山行までのプロローグ

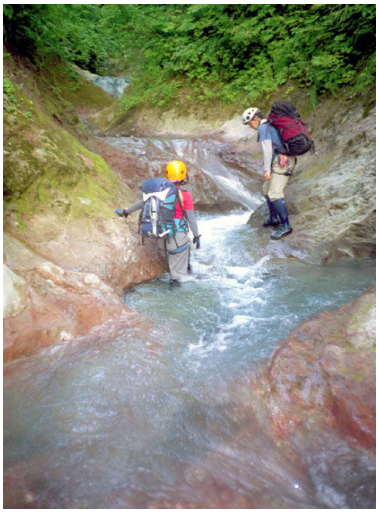
今年の氷のシーズンに大野君からアイスクライミングの指導を依頼され、2週連続で山行を共にしたが、その際に「高橋さんが行きたい沢があったらお供しますよ」「じゃぁ、前々から行きたいと思っていた尿前に連れて行ってよ」といった具合のやり取りがあったと思う。彼は律儀にもその時の事を憶えていてくれて、いよいよ沢シーズンに入ると、私に合ったユッタリモードの計画を立ててくれたのだ。この計画に高柳・後藤ペアーそして浅井君という強力なサポーターが加わった。
「シメシメ、これで夢の大名山行が。」とほくそ笑んだのだっ
ところが計画は固まったものの、その前哨戦として私が企画した「焼石山塊・夏油温泉～ウシロ沢遡行、牛形山～南本内沢の下降・登り返し～夏油沢下降～夏油温泉」の2泊3日山行で、私の体力不足が原因で、「ウシロ沢」遡行のみの無残な結果に終わってしまった。
これには心底参った・・・。「大野君に白旗を上げたほうが？・・・」。
こんな私の腹の底を見透かしたように、今回の尿前計画は
「第1日目は新幹線で最寄の「水沢江刺」へ。車に乗り換え「焼石岳登山道」を経て、尿前本流をほんの30分程入っただけの「フロ沢出合」で幕営。翌日の英気を養い、早立ちで本流を遡行し、沢中で幕。源頭から「焼石岳」を散策し、登山道を戻る。
といった、他のメンバーには申し訳ないが、私には勿体無いほどにピッタリのものだった。「心遣い、ありがとう。大野君感謝感激です。これで私でも何とか念願の遡行が果たせそうです。

尿前本流遡行

この渓はトマのメンバーの多くが遡行経験をしているので、これから遡行を計画する会員の参考程度に止めておきたいと思う。
1. フロ沢の出合　幕営サイトとしては他に類を見ない程の好物件。テント3張程度は十分の右岸高台と30畳はあろうかという、ま平らな岩盤が備わっている。この渓にはほとんど天場が見当たらないので、①初日は此処にテントを張り、「フロ沢」を中間部くらいまで遡下降する。②幕営の翌日に軽荷で遡行し、登山道を駆け下りて、デポ品を回収。登攀回数が多いので軽荷の方が有利だし、登山道からフロ沢出合往復は1時間のアルバイトで済む。

2. 最初のゴルジュ

4m滝から始まる最初のゴルジュは、水量次第だが、積極的に水線通しで通過したい。
一部微妙なヘツリが必要だが、平水なら全く問題ないし、この渓の良さを堪能出来る。巻いては勿体無い。



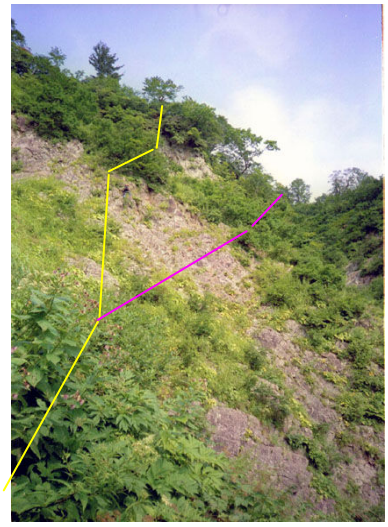
3. 三ツ折滝

この滝はルートの取り方次第で時間的にも大きく差が付くしリスクも増す。「左岸を大高巻き」するパーティーもあるようだが、これは、よく剥がれるボロボロの壁を、ほぼノーピンで登らねばならないし、何より大高巻きにならざるを得ない。我々は右岸草付から樹林帯を登り、最後は「松の木」を支点に懸垂した。更によく観察すれば、枝を掴んでの下降も、可能だったろう。

4. その先の10m滝

滝左岸すぐの草付から取付き、樹林帯を巻く。

5. <30mの大滝>



少し戻って、右岸の草付をブッシュ帯迄登り、草付の岩屑の混じる壁をトラバース気味に右上。我々は高柳ルート(黄色線)で。大野君の想定ルートは壁を水平にトラバース(ピンク線)だが、途中ブッシュでの支点はとれない。後続はこのルートを辿り、我々を追い越して行った。この先浅井君が更に1P直上して終了。6人で2時間を費やした。

6. 夫婦滝（本流・左滝）

左壁の草付の丁度隙間の部分を登攀（ノーピン）。30mで大きな岩にピトンを打つ。残置あり。更に10mトラバースし、滝上に。このルートの取り方で時間的には大きな差が出そうだ。

7. その他の名渓振りの紹介

<30m大滝>上はナメ床、ナメ滝が100m以上延々と続く

<三ツ折滝>上の明るいゴルジュは素晴らしい

<3段15m滝> 上流にもこんな滝が楽しめる

源頭に近づいてもタメ息をつくばかりの渓相

8. コースタイム　**25日**「中沼登山口駐車場」11:46～入渓点12:20～フロ沢出合12:50（幕）
26日　幕場5:50～30m大滝7:40-10:00～夫婦滝11:46～最後の二俣（左へ）15:10
～登山道15:50～銀明水16:45　　**27日**　銀明水避難小屋7:00～車止9:30